

音楽科から総合的な学習へのアプローチ

－「三部作『平和への祈り』をつくろう」の実践より－

新福 一 孝

2002年から総合的な学習の時間が本格的に始まることになった。各学校では、学校や生徒の実態に合った活動を模索しているところであろう。私が今回受け持った中学3年生のL I F Eは、音楽を選択した生徒たちが集まっている。そこで、まず、総合的な学習とは、「どのような学習なのか」「どのような力を育てるための時間なのか」を明確にしたいと考えた。その上で、音楽科の立場からはどのように各教科や特別活動などとの関連を図りながら、どのような活動を展開することができるのかを探っていくと考え、題材「三部作『平和への祈り』をつくろう」を設定し、生徒たちにどのにどのような力が身に付いたかを検証していくことにした。

I 「総合的な学習」の時間の考え方について

1 「総合的な学習」とはどのような学習か

21世紀の社会は急速に変化していく社会であると思われる。そのような社会の変化に対応していくためには、自分が直面した問題に対して、自分のもっている力を総合的に発揮して対処していくことが必要になるであろう。そのためには、今、自分のまわりにある自分との関わりが大きい問題に接し、自ら進んで問題解決していく力を育てていくことが大切になる。つまり、「はい、今日は教科書の○ページをします。開いて」という学習から「先生、今日はこんなことをこんな方法でしらべようと思う」という学習への転換を目指していると考える。

2 「総合的な学習」はどのような力を身に付ける学習か
自ら進んで問題解決をしていく総合的な学習の時間においては、次のような能力を身に付ける必要があると考える。

- ア 問題解決に必要な情報を選択し、活用することができる情報活用能力
- イ 問題を追求する過程や自力で解決できたことで身に付く問題解決能力
- ウ 自分のおもいを他者へ伝える内容や方法を工夫していく自己表現能力

つまり、「このように追求していけばいいんだ」「このように表現すればいいんだ」という学び方やものの考え方を体験を通して身に付につけていく学習であると考える。

3 テーマや課題の設定について

課題・テーマは、学校が「地域や学校、生徒の実態等に応じて」自由に設定することができるものとなっている。設定の方法は次のようなものが考えられるであろう。

- ア 各教科からアプローチして設定
- イ 生徒の興味・関心を調べた上で設定
- ウ 現代社会がかかえている問題から設定
- エ 生徒が自由に設定
- オ 地域性を生かしたものを設定
- カ その他

ただし、その内容は、生徒の発達段階に合ったもので、追求するだけの価値があり、活動を通して生徒が充実感、満足感、達成感を味わえるものであることが大切であると考え。また、小学校・中学校・高等学校の12年間を通じて、児童・生徒が様々な課題に取り組むことができるように学校間の連携を取っていくと、多様な問題へ対応していく力が身に付くことになるであろう。

4 学習形態について

何を学習するか（課題・テーマ）によってどのようにするか（学習形態）が決まってくる。そこで、考えられる学習形態を挙げてみることにする。

- ア 同一テーマの一斉学習
ガイダンス、ゲストティーチャーの講演等
- イ 同一テーマの個人・グループ別学習

大テーマに沿って、個人・グループで課題を設定、又は選択して解決する学習形態
 ウ 個人・グループ別のテーマ学習
 個人・グループで興味・関心に基づいたテーマを設定し、追求していく学習形態

5 教師の関わりについて

教師の関わりとしては、学習の過程のすべてに関わり、つねに評価をしながら適切な支援をしていくことが大切であると考え。例えば、次のような関わり方が考えられる。

ア ガイダンス、オリエンテーションでの学習の進め方への共通理解
 イ テーマ・課題設定の際の相談
 ウ 活動計画を立てる際の助言
 エ 学習活動中の評価、適切な助言
 オ 発表・まとめ方への評価、適切な助言

以上のようなことをもとに、題材「三部作『平和への祈り』をつくろう」を設定し、実践していくことにした。

II 題材「三部作『平和への祈り』をつくろう」の実践

1 題材設定の考え方について

本題材は次のような関連に基づいて設定した。

— 地域性との関連から —

本校は、原爆が落とされ悲劇の舞台となった広島県にあり、生徒の平和への意識も高い。

— 特別活動との関連から —

社会見学旅行で長崎市の平和記念公園、資料館を訪問する計画があり、平和に対するおもいが一層高まってくる時期にある。

— 音楽科の内容から —

効果音の作り方（音色の追求、強弱・リズム・速さの工夫など）
 作詞・作曲、歌唱、器楽などの創作、表現

— その他の教科関連から —

作文、朗読する力、演技力（声での表現）

2 題材の構成と学習形態について

本題材は次のような三部構成になっている。

〔第一部〕 原爆の悲劇
 〔第二部〕 原爆のもたらしたもの
 〔第三部〕 永遠の平和に向かって

この授業は47人が選択しているが、自分が表現したい部分を選択させてグループをつくった。そして、そのグループ内でまとめ役をつくり、話し合いによって役割を分担させた。役割は大きく分けて、ナレーションづくり・朗読、効果音・BGM、作詞作曲・演奏などが考えられるが、生徒の興味・関心や特技などをもとに分担させることにした。

3 本題材の指導計画（全13時間）

(1) 題材のねらい

各教科、特別活動などでの学習経験を生かしながら、資料や音素材を活用し、原爆や平和に対するおもいを表現することができる。

(2) 主な活動内容

時数	主な活動内容
1	1. 題材についてのガイダンスを聞き、学習内容について知る。
1	2. 戦争・原爆についての知識を深める。 ・ビデオ「はだしのゲン」の視聴 ・原爆に関する書物の紹介
夏休み	○ 社会見学旅行（長崎）での体験 平和公園 原爆資料館 など
1	3. 社会見学旅行（長崎）での体験や既習経験をもとに、「原爆の悲劇」「原爆がもたらしたもの」「永遠の平和に向かって」の部分でイメージする言葉、情景などを書き出す。 4. 効果音のつけ方について考える。 ○教師の範奏を聞く。 ○短い文に合う効果音をつくってみる。 ○「祈り」（早川正昭作曲）を聞く。
	5. グループ分けをして役割分担をする。

	<p>○興味・関心にもとづいてグループ分けをする。まとめ役を決める。</p> <p>○特技を生かして役割分担をする。</p>
5	<p>6. 役割分担にもとづいて表現づくりを進める。</p> <p>《ナレーションづくりの生徒》</p> <p>活動内容の3で書き出したイメージや原爆に関する資料をもとにつくる。</p> <p>《効果音・BGMづくりの生徒》</p> <p>ナレーションや設定した場面をもとに楽器や身近なものを使ってつくる。</p> <p>《作詞・作曲の生徒》</p> <p>自分たちのおもいを伝えるような歌詞、メロディー、伴奏を工夫してつくる。</p> <p>※まとめ役を中心に各役割の連絡・調整を行うようにする。</p>
3	<p>7. グループごとにリハーサルをする。</p> <p>○1つのグループが演奏室を使用するときは、残りの2つのグループは音楽教室で合わせるようにする。</p> <p>○表現は録音し、ふり返らせる。そして、改善し、練り上げができるようにする。</p> <p>○各グループの表現を録音したものは、他のグループにも鑑賞させ、グループ間の流れ、内容のつながりがスムーズに行くように表現を工夫させる。</p>
2	<p>8. 全体でのリハーサルをし、録音する。</p> <p>○3つの部分を続けて表現する。</p> <p>○つながりの部分での問題点を意見交換し合い、表現を工夫する。</p> <p>○3つの部分を続けて表現する。</p> <p>※録音したものは、CDにして作品として残すようにする。</p> <p>9. 題材のまとめをする。</p> <p>○アンケートに答え、感想を書く。</p>

4 実際の活動の様子

【4時間目まで】

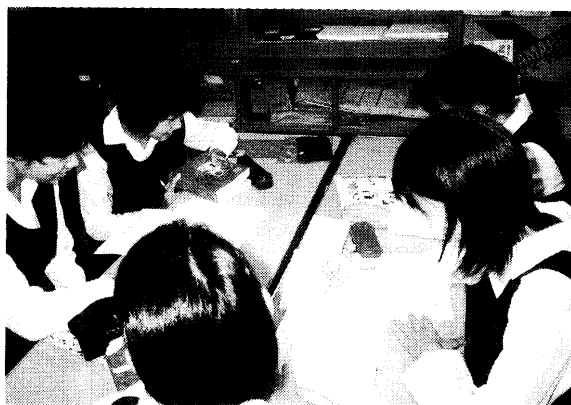
普段の授業は、教科書や資料にもとづいて活動を展開されていくが、この授業は全くゼロからのスタートであった。教師の説明を聞いても、することは何とな

くわかるが、実際どうしていいのかははっきりとはわからない様子であった。

【5～8時間目】

活動をしていくうちに、ナレーションができていった。効果音のグループはより情景に合った音探しをするようになった。作詞・作曲のグループは歌詞を考え、それをもとにメロディーを口ずさんだり、ピアノで弾いて聴き合ったりした。各グループがそれぞれの表現にこだわりを持ちながら活動を続けていった。

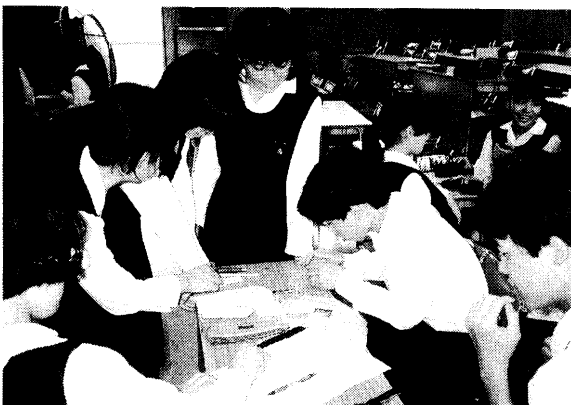
〔ナレーションづくりをしている生徒たち〕



〔効果音をつくっている生徒たち〕



〔セミ笛を作っている生徒たち〕



【9～11時間目】

グループごとにリハーサルをした。実際に表現してみると、朗読と効果音のタイミングが合わなかったり、BGMの音量とのバランスがとれなかったりと課題が明確に表れてきた。しかし、それらの課題は他のグループのリハーサルの間に十分に改善することができた。

【12・13時間目】

全員でのリハーサル。緊張感ただよう中での迫真の演技や表現が続いた。他のグループの表現に刺激を受けながら、作品はつながりよく流れていった。最後の本番の録音が終わった時は拍手がおこり、互いの表紙の素晴らしさをたたえあう姿が見られた。

《生徒がつくった「平和への祈り」全体の構成》

ナ レ - シ ョ ン	効 果 音 ・ B G M
<p>[第一部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月6日。今日もいつもと同じように朝がやってきます。 ・ (弟)「おはよう」(姉)「おはよう」(弟)「わーい、ねえちゃん。真っ青な空じゃ。ええ天気やのう。」(姉)「ほんと」 ・ 「空襲警報発令」「空襲警報発令」 ・ (近所の人1)「逃げろー」(間) ・ 「空襲警報解除」 ・ (近所の人2)「解除されたぞー」(母)「よかったわね」 <p>(父)「じゃあ、行ってくるぞ」(子)(母)「行ってらっしゃい」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ もし、この第1回の空襲で原爆が投下されていたら防空壕にはいっていた多くの人が助かっていたかも知れません。しかし、敵機は逃げていったものと安心してみんな出てきてしまったのです。そして、8時15分。 ・ (子)「お父ちゃん、お母ちゃん」「いたいよー」「たすけてー」(近所の人2)「助けてくれー」(子)「お父ちゃん、死んじゃいやだー」(母)「誰か、この子を助けてお願い！」 (近所の人2)「水をくれー。ウー」(子)「お母ちゃん、助けて、熱いよう」(母)「大丈夫、走るんよ！。逃げるんよ！」(近所の人3)「はよはよ、川に入るんじゃ」 (近所の人4)「火がまわってきょーるぞー」(近所の人5)「水をー誰か水をー」 ・ 一瞬ピカッと白く光り、太陽が落ちてきたかと思うほどの光や熱が人々を襲いました。そして、爆風が建物をも粉々にし人々の生活のすべてを奪い取ってしまったのです。火のまわりも思った以上に速く、一面火の海になってしまいました。子供や、子供を探す母親などのうめき声や悲鳴が鳴りやみませんでした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ BGM「ペールギュント」より「朝」 ・ 鳥の鳴き声 (シンセサイザー) ・ セミの鳴き声(セミ笛) ・ サイレンの音 (シンセサイザー) ・ 時計の秒針の音(メトロノーム) ・ 敵機の近づいてくる音(電動ブラシと弁当箱)・原爆が投下される音(スライドホイッスル) ・ 爆音(バスドラム) ・ 火が燃え盛る音(いろいろな種類のビニール袋) ・ うめき声(何重にも声を重ねて不気味さを出す。)
<p>[第二部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (子)「あっ、雨だ。黒い雨だ！」 ・ それは、数えきれない死体と廃墟と化した街の上に降り注ぎました。今なお燃えつづけていた炎が弱まっています。うめき声も消え、雨の音のみが耳に入ってきました。この雨が後々人々を苦しめることになろうとは、誰も知りませんでした。 ・ まわりを見回すとあたり一面が焼け野原と化し、そこには街の変わり果てた姿がありました。 ・ さまよい歩く人々を避けながら歩いていると、気がつく自分の家の前に立っていました。そこにはただ焼け野原が続くばかりで、数日前まで平和にすごしていた家族の姿はありま 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雨の音(レインメーカー、シンセサイザー) ・ 不気味さを出す音(ピアノ、ビブラフォン) ・ 強い風が吹く音(シンセサイザー) ・ 不気味さを出す音(木琴のトレモロ奏) ・ 不気味さを出す音(ピアノ)

せんでした。

- あたりを必死で探したところ、歪んだお茶碗が出てきました。それを見ながら、気付くと泣きわめいていました。そうです、原爆は全てを奪い、孤独と苦しみを残していったのです。強い風が吹くと死の灰が舞い上がり、いつの時代も死んでいくのは弱い国民だ。こんなことを思うと、悲しみの代わりに憎しみと怒りがふつつと沸き上がってきました。

○ 作詞・作曲をした歌の歌詞

焼け野原、一人たたずむ。死の灰舞い上がり。

この街を一人見ている。孤独が襲う。全てを失って気付いた命の重み。家族の大切さ。

恐怖の闇で悲しみが怒りに変わる。僕は今叫んでいる。

- 永久に人の心と体を蝕む後遺症。元気だった人間が被爆後一ヵ月して、バタバタと死んでいくのです。私は、原爆が投下された日、偶然にも爆心から遠く離れた所にいました。しかし、私の家族は、爆心地のすぐ近くにいました。私は心配になり、家族を探しに戻りました。その時、私は「放射能」という名の悪魔に侵されはじめていたとはもちろん知りませんでした。家族を捜し回りましたが、全くといっていいほど手掛かりはなく結局分からないままです。爆心地を訪れて数ヵ月後、私の体に異常が見えはじめました。髪は抜け落ち、歯ぐきからは血が出て、紫斑が身体全体に表れ、咳がひどく呼吸が困難になりました。以前健康だった私には信じられない出来事でした。私は、家族を失った悲しみだけではなく、この症状との苦しみとも闘わなければならなくなりました。しかし、この苦しみは長くは続かず、症状が現れはじめて数日後、私は息絶えたのです。
- 私は叫びたい！今も後遺症に苦しんでいる人たちがたくさんいることを！そして、戦争は多くの面で被害を与えたことを私は伝えたい！戦争の恐ろしさを！

- ショック音（ピアノの不協和音）
- 不気味さを出す音（ピアノ）

- ショック音（ピアノの不協和音）

- 歌とピアノ伴奏

- 人々のうめき声（数人の声で）

- 不気味さを出す音（シンバルとティンパニ）

- BGM（ビブラフォーンで「イエスタディー」）

[第三部]

- 戦争という命の奪い合いや原爆による多くの悲しみ・孤独を味わい、いつ命を失ってもおかしくないような明日無き道を絶望的な気持ちで歩いてきた人々。
- 暗闇の中から一つの芽が出たとき、彼らの心にも希望の光が戻ってきました。
- (子)「いい天気だね。お母さん」(母)「散歩にでも行こうか」(子)「うん、行こう行こう！」
- (子)「空が真っ青だね」(母)「雲が一つもないよ。ほら見て鳩がいっぱい飛んでるよ」(子)「どこに飛んでいくのかな」
- 今、平和の象徴とされている「鳩」は私達に平和を感じさせてくれるものだったのかも知れません。原爆が落ち、生きることの大切さ、そして、永遠の平和を知り、少しづつ生きる活力が戻り始めました。

○ 作詞・作曲をした歌の歌詞

ヘイ！みんな生きてるかい。生きてるよ。Let's begin now yeh !

(「パッフェルのカノン」のメロディー)

Hellow Hellow Hellow Hellow (和音の重なりで)

大切なもの。(それは平和!) <ハンドベル>

爆弾 捨てよう。

みんな仲良し We are freand over the world

ララ ラララ ララーラーララー 大切なもの。(それは平和!) <ハンドベル> 爆弾捨てよう。

人類 みな兄弟 We are piegon over the world

- あの惨劇から54年たった今、原爆による後遺症などに苦しんでいる人がいることを忘れてはいけません。同じ過ちを繰り返さないように・・・。

- 不気味さを出す音（シロフォンのトレモロ）
- ショック音（箏の連続音）
- 希望を表す音（シンセサイザーのベル音で順次進行のメロディー）
- 鳥の鳴き声（シンセサイザー）
- ドアを開けて外に出る音

- 鳩が飛び立つ音（ビニル袋）
- 鐘の音（チャイム）

- 「パッフェルのカノン」（メロディーはリコーダー、ギターのリズム）
- 作詞・作曲による歌

- 作詞・作曲による歌のメロディーをもとに作ったBGM（シンセサイザーのボイス音）

5 考察とまとめ

《本題材終了後の自己評価から》

項目は教師が設定。調査人数は44人である。

- ア いろいろな情報から適当なものを選択して活用する力 (41%)
- イ 自分で考え表現をつくる力 (72%)
- ウ 作品全体の構成を考えて表現を追求〔修正改善〕していく力 (59%)
- エ 自分と他の人との関わりで表現の工夫を工夫する力 (68%)
- オ 友達と協力して表現をつくる力 (91%)
- カ 自分のおもいを表現して伝える力 (53%)
- キ その他 (自由記述)
 - ・平和の大切さをみんなに広げる力
 - ・独創力

アは情報活用能力についての項目であるが、過半数をきっている。資料や音源の不足が原因と考えられる。これからは、インターネットなどでの情報収集の方法なども取り入れていきたい。

イ・ウ・エ・オは問題解決能力についての項目である。個々の特技を生かした役割分担制にしたため友達との協力はよくできている。互いの役割の中で自分たちの目指す表現がある程度できたと感じている生徒も多いのだが、全体の構成をとらえて表現を追求する力はやや低いことがわかる。原因としてはリハーサル不足が考えられる。

カは自己表現力についての項目であるが、これはウの表現を追求する力との関連もあり、表現を追求するだけの時間の保障がなかったために、おもいを伝えられる表現ができたという自信にまでは至らなかったようである。

《本題材終了後の感想から》

感想は自由記述による。(次にあげるものはたくさんの感想の中の一部である。)

- ・「何もないところから創っていく」ことの難しさや楽しさを実感した。
- ・今まで「つくられたもの」しか聞いたことしかなかったので、伝えることの大変さ、工夫することの大切さがわかった。新鮮な体験だった。
- ・私たちが伝えたかった「平和の大切さ」がどれだけの人につたわるのか楽しみ。自分と違った友達の平和に対する感覚がわかった。
- ・みんなの表現力のすごさに驚き、感動した。みんなで一つのことをなし遂げるのはすごい！作

品のテーマがよく伝わったと思う。

- ・自分の音楽や平和に対する新しい考えも生まれ創造力も豊かになったように思う。
- ・始めは乗り気ではなかったが、やっていくうちにその場の情景が目の前に表れるようになり、表現することにのめりこんでいった。

感想からもわかるが、始めは「何もないところからつくる」ことや「原爆、平和」を表現することにあまり乗り気ではなかった生徒が多かった。しかし、いろいろな情報を得たり表現をつくったりする中でよりリアルな表現を追求したり、みんなのおもいを伝えようとする気持ちが高まっていった。ふり返ってみると、「原爆、平和」を題材にしたことで、怒りや悲しみ、喜びという多様な心情を多様な方法で表現できたと考える。そして、多くの生徒がその満足感や達成感を味わうことができたと言える。

Ⅲ 研究のまとめ

今回の研究では、「総合的な学習」の基本的な考え方をもとに、音楽科からのアプローチという視点で題材を設定した。これまでにしたことのない学習内容だったが、生徒たちは普段の授業では見せないような一面を見せた。これは、一斉の授業でなく、個々の特技を生かした役割分担をしたからだと考える。今回の研究では、「総合的な学習」の魅力を感じることができたが、小学校からの12年間で、国際理解、環境、情報、福祉、平和、地域等多様な内容を多様な学びで経験させることが大切になるであろうと考える。そして、その積み重ねは真の意味での「生きる力」になっていくであろう。